



お姫様と少年はお城の庭でお散歩をしておりまして、ある日、

お姫様もしたいにおしとやかに、ゆきましました。

少年の世話をすることで、

やがていきいきとした表情を持つようになりました。

はじめただ美しい人形であった少年は、

お姫様は少年にいろいろなことを教えました。

いっぺんに気に入ってしまったのです。

お姫様はその少年をとても美しい姿としておりました。

少年はライラック色の髪と瞳の、

王様はお姫様にこう言いました。

この少年を一人前にしてごらんさい、と。

森の魔女から魔法人形の少年を譲り受けます。

お姫様のわがままに困った王様は、

わがままでおてんばなお姫様がおりまして、

むかしむかしある国に、

「あ、あの花」

佐藤こおりと申します。

pixivでMakesの二次創作小説を書いています。

このお話みたいな童話風味や日常のいちやいやいや(名前呼びび有)などなど、思いつくままに書き綴っています。



ワイルドウルブが私の王子セイくん  
(最近はおつぱらアラメにしています)

おしまい

「わたくしの気持ちでございませう」

花を差し出す少年があまりに美しく、お姫様は少年にキスをしました。

少年はお姫様にひびき、花をそっと差し出します。

お姫様は少年が木に登る様子をはらはらと見守ります。はたして少年は一房の花を手に取り、木から降りてきました。

おてんばなお姫様は木に登ろうとしました。少年はお姫様をとどめ、自らが採ると言いつつ木に登り始めました。

お姫様が見つけたのは薄紫色をしたライラックの花でした。